

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	住宅販売会社（従業員）	・例年、大イベントを2回開催しているが、今年は更に1回増やすため、来場者の増加、受注の拡大が期待できる。
	やや良くなる	百貨店（営業担当）	・競合している大型店が3月で撤退するため、中心商店街の活性化に若干懸念材料があるが、最近のファッションを中心とした春物需要の活発な動きからみて、消費は上向いていく。
		百貨店（営業担当）	・旅行やセレモニーの季節に向かっていくが、高額のスーツ類が前年以上に好調に売れる兆しがある。
		百貨店（営業担当）	・当店のリニューアルは2月に完了し、駅前の活性化、動員力アップが図られる。婦人衣料も回復傾向にあり、入学・卒業などのモチベーションアイテムやカジュアルアイテム共に期待できる。
		コンビニ（経営者）	・競合店の新規オープンによる影響が薄れ、来客数の減少幅が小さくなっている。客単価の上昇などもあり、売上は2か月連続で前年を上回っているため、先行きに対してある程度手ごたえがある。
		衣料品専門店（経営者）	・各店舗とも売上、客単価が前年より徐々に良くなっている。また、来客数が前年を上回った店舗もみられ、この上昇傾向が強くなる。
		家電量販店（経営者）	・ガス、灯油の値上がりの影響からIHクッキングヒーター、電気温水器等の需要が高まる。
		観光型旅館（経営者）	・4月以降の集客は団体を中心に順調に進んでいる。ただし、単価は例年と変わらない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・鉄道会社の「北陸キャンペーン」による宿泊客の増加に加え、レストラン利用客や婚礼受注の増加傾向などにより前年を上回る見込みである。
		タクシー運転手	・客からは各企業の業績が回復し、春の昇給が期待できるという話が聞かれるため、現状の節約ムードが少しは解消していく。
		通信会社（社員） 通信会社（役員）	・春商戦に向けて携帯電話の新端末が発売される。 ・デジタルテレビの低価格化による好調な販売に支えられ、デジタル放送サービスの新規加入の促進が期待できる。
	変わらない	一般小売店〔精肉〕（店長）	・米国産牛肉の問題が長引き、現状からあまり変わらない。
		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・ようやく金融機関や民間企業からわずかながら設備投資の話が入ってきているが、実際に予算が付くかどうかは不明である。
		百貨店（営業担当）	・2か月先は婦人衣料の春物、初夏物のピークになるが、今年は刺しゅうやリボンなど高級感のあるアイテムが増えているため、客単価の上昇が期待できる。
		スーパー（営業担当）	・消費動向は少し上向いているが、この流れが食品スーパーにまで来ていない。また、明るい材料に乏しい。
		家電量販店（店員）	・サッカーワールドカップの効果でAV商品が若干上向くが、他の商品の単価下落を埋める程度にとどまる。
		乗用車販売店（総務担当）	・県内市場ではやや上向き兆しがあるが、当社では当分新車の投入がないため大きな期待は持てない。しかし、低燃費の小型車の販売は堅調に動いており、前年を超えるまでにはならないが、販売台数の大きな落ち込みもなく推移する。
		乗用車販売店（営業担当）	・車種別には軽自動車の動きは良いが、普通車は良くないため、全体としては上向きにならない。
		自動車備品販売店（従業員）	・天候も次第に良くなり、進入学や転勤などにより需要は喚起されるが、競合店との価格競争もあり、単価が思うように上昇しない。
		高級レストラン（スタッフ）	・3、4月の歓送迎会の受注はほぼ例年並みである。ただし、3月下旬には選挙を控え、官庁からの発注が全くない。桜の開花が遅くなれば、歓迎会や入学祝いとは別に花見による集客が期待できる。
スナック（経営者）		・多忙な企業がある一方で、前年実績をクリアできない個人商店があるなど、相変わらず業種によるばらつきがあり、今後も現在のような状態が続く。	
旅行代理店（従業員）	・昨年の愛知万博のようなインパクトのあるイベントが期待できないため、現状維持で推移する。		

		タクシー運転手	・タクシーの需要以上にタクシーの台数が増えており、売上の減少が続いている。また、年収の悪い業界との見方が定着し、若年労働者が集まらず、平均年齢が上がる一方である。労働集約型の業界でありながら、忙しい時間帯に労働力を投入できない状態になっている。
		通信会社（営業担当）	・携帯電話の販売台数の動きは現状より良くなるが、来客数は横ばいで推移する。
		通信会社（営業担当）	・サッカーワールドカップが開催される6月までは携帯電話の販売動向に変化はない。
		テーマパーク（職員）	・来場者やレストランの予約状況は今月並みであり、大雪の影響から客の動きは鈍い。
		住宅販売会社（従業員）	・展示場の来客数やチラシの反響がほとんど変わらず、販売の伸び悩み傾向が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・中古住宅の流通が増えているため新築住宅の需要が増えず、また客の住宅予算も増えない現状にある。この売上規模の縮小を埋めるには、リフォームと賃貸住宅に活路を見いだすしかない。
		住宅販売会社（総務担当）	・客に景況感の高揚はあるが、住宅取得に対する意欲は限定的であり、期待できない。
	やや悪くなる	スーパー（店長）	・安売りをしても、来客数は増えるものの、客は必要な物、必要な量しか買わないため、買上点数が伸びない。また、ポイントカード制を中止したため、厳しい状態が予想される。
		スーパー（副店長）	・客はバーゲン期にならないと購入しない。また、購入する商品はより吟味し、無駄な物は一切購入しないという傾向が今後も続く。
	悪くなる	商店街（代表者）	・地元では百貨店の撤退などがあり、ますます沈滞ムードが深まる。
		スーパー（店長）	・競合店が昨年10月以来3店も進出したうえ、さらに夏までに2店のオープンが控えており、先行きは極めて厳しい。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	化学工業（総務担当）	・新規の受注が発生する。
		通信業（営業担当）	・コスト削減の観点から、中小事業所ではIP電話などの通信インフラの需要が高まる。
		司法書士	・新会社法の施行に伴い、新会社を設立したいという動きがいくつか出ている。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・今シーズンの冬物の在庫は相当改善されたが、取引先からの発注は小ロットでかつ慎重であり、この状況が続く。
		建設業（総務担当）	・工事の引き合いは一部に増加傾向がみられるものの、協力業者も多くの受注を抱えて余裕がないことから、今後は価格を上乘せして仕事を依頼する必要があると、採算の更なる悪化が懸念される。
		輸送業（配車担当）	・特に明るい材料もなく、売上なども前年並みで推移する。3月からは軽油の値上げ要請もあり、経費が増える割には運賃等の値上げが進まない。
		金融業（融資担当）	・先行きの原油高騰の影響を読み切れない企業がある一方で、売上が前年を上回っている企業も見受けられ、全体としてはあまり変わらない。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・3、4月にスーパー等の出店予定があり、折込チラシは増加するが、中心商店街で百貨店が閉店するため、差し引きでゼロとなる。
	やや悪くなる	精密機械器具製造業（経営者）	・眼鏡各社の新商品受注状況は例年と比較してあまり多くなく、今後の生産量は横ばいもしくは下降気味で推移する。
	輸送業（配車担当）	・原油高騰による燃料の値上がり分を客に転嫁することはできず、厳しい状態が続く。	
悪くなる	建設業（経営者）	・平成18年度予算では公共事業や県単独事業などが大きく削減され、さらに新幹線関係にも予算が取られたことから、地元密着型の工事はほとんどなくなる。さらに4～6月は年度の初めであり、発注は限りなくゼロに近い。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・一部製造業の下請業者はフル操業状態のため求人の依頼が多いが、人材不足で応じ切れない。また、一般企業の事務系においても、主としてスキルの問題で折り合わない状況が続く。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・専門家や技術者へのニーズは高く、人材不足が続く。
求人情報誌製作会社（編集者）		・求人状況は、学生の卒業や生活環境の変化による交代要員としてパート・アルバイト募集の増加が目立っているが、正社員の募集は横ばいで推移する。	

	職業安定所（職員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>有効求人数は前年比で3か月連続の減少となっているものの、減少幅は小さくなっている。産業別にみると、「その他の事業サービス業」の新規求人数が平成16年度から前年同月比プラスで堅調に推移している。一方で、派遣・請負といった非正規雇用が中心であるため充足率はほぼ最下位であり、求人数の増加が就職件数の増加につながりにくいことから、今後も全体としては変わらない。</li> </ul>
やや悪くなる	-	-
悪くなる	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	<ul style="list-style-type: none"> <li>この半年間は売上が落ち続けている。これは、景気による要因というより、求人広告の新聞媒体離れの可能性もあり、簡単には結論付けられない。</li> </ul>